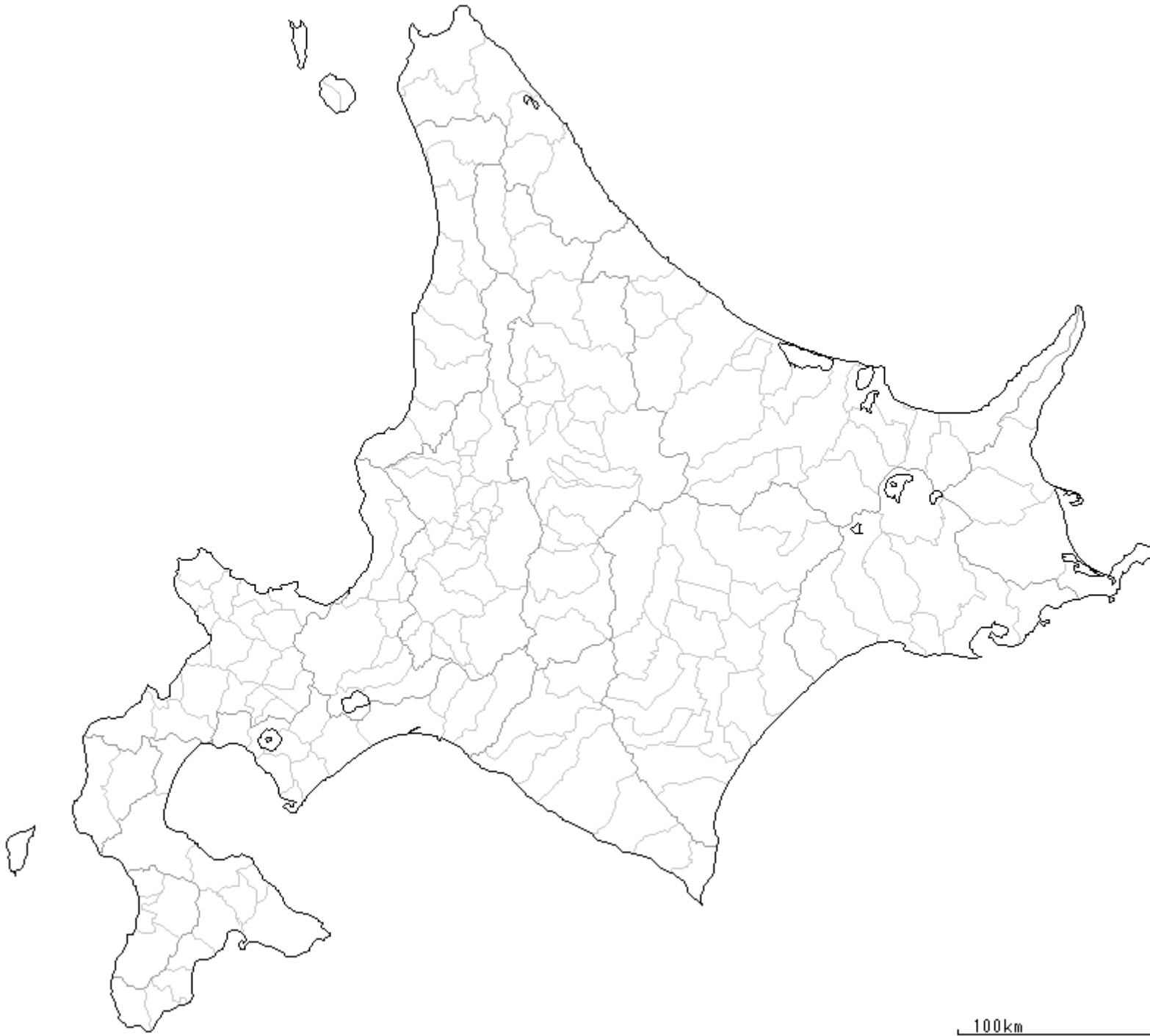


北海道白地図



地理動画⑨北海道

関連サイト

道南

函館赤レンガ

http://cgi2.nhk.or.jp/archives/michi/cgi/detail.cgi?dasID=D0004500182_00000

函館山 http://cgi4.nhk.or.jp/eco-channel/jp/movie/play.cgi?movie=j_ohayou_20130129_2338

五稜郭 <http://gyao.yahoo.co.jp/player/00473/v09828/v0982700000000541069/>

松前 <http://gyao.yahoo.co.jp/player/00473/v09828/v0982700000000541071/>

道央

赤レンガ <http://gyao.yahoo.co.jp/player/00473/v09828/v0982700000000541068/>

小樽 <http://gyao.yahoo.co.jp/player/00473/v09828/v0982700000000541070/>

札幌雪祭り

http://cgi2.nhk.or.jp/archives/michi/cgi/detail.cgi?dasID=D0004500368_00000

大通公園 <http://machi-log.jp/spot/90553>

洞爺湖

http://cgi2.nhk.or.jp/archives/michi/cgi/detail.cgi?dasID=D0004430172_00000

羊蹄山

http://cgi2.nhk.or.jp/archives/michi/cgi/detail.cgi?dasID=D0004060098_00000

夕張と財政破綻 <http://www.youtube.com/watch?v=WKcqTawIVTU>

「幸せの黄色いハンカチ」 <http://www.youtube.com/watch?v=b2GLoBRmCOs&feature=related>

美瑛 http://cgi4.nhk.or.jp/eco-channel/jp/movie/play.cgi?movie=j_air_20100824_0980

富良野

http://cgi2.nhk.or.jp/archives/michi/cgi/detail.cgi?dasID=D0004080017_00000

大雪山

http://cgi4.nhk.or.jp/eco-channel/jp/movie/play.cgi?did=D0013772549_00000

道東

知床オホーツク海

http://cgi4.nhk.or.jp/eco-channel/jp/movie/play.cgi?movie=j_ohayou_20120227_1689

流水

http://cgi4.nhk.or.jp/eco-channel/jp/movie/play.cgi?movie=j_kitami_20130514_2389

シマフクロウ

http://cgi4.nhk.or.jp/eco-channel/jp/movie/play.cgi?movie=j_ohayou_20121210_2319

「狙った恋の落とし方（非诚勿扰）」 <http://www.youtube.com/watch?v=GcQ276BlbEE>

タンチョウ

http://cgi4.nhk.or.jp/eco-channel/jp/movie/play.cgi?did=D0013772521_00000

道北

利尻島

http://cgi4.nhk.or.jp/eco-channel/jp/movie/play.cgi?movie=j_air_20100823_0979

利尻昆布

http://cgi4.nhk.or.jp/eco-channel/jp/movie/play.cgi?movie=j_hokkaido_20121223_2323

高田の独り言

北海道のイメージ

北海道の地を初めて踏んだのは、1991年の初秋でした。その年の夏、二十歳だった私は自転車にテントを積んで沖縄をスタートし、九州をS字型に走り、本州の日本海側を北上して下北半島から連絡船に乗って函館に到着しました。そしてそこから約三週間におよぶ北海道一周の野宿旅行が始まりました。北海道には夏になると私のような若者が日本中から集まり、ライダーハウスとよばれる一泊千円以下の安宿や、宿泊可能なバス停なども多く、「内地（北海道・沖縄以外の日本）」のどこにもない一種独特な旅行者文化が咲きます。



↑内地人の「北海道」のイメージ(?) 日高市

初めて訪れた北海道ですが、私の「北海道観」もご多分にもれず昭和後期のテレビや映画、そして流行歌によって形成されていました。テレビ番組でいうと「北の国から」の富良野や「ムツゴロウ動物王国」の霧多布湿原。映画ならば山田洋次監督の「幸せの黄色ハンカチ」の夕張や「網走番外地」の網走、流行歌ならば「知床旅情」、「宗谷岬」、「襟裳岬」など、北海道のイメージは雄大な自然や旅情をかきたてる風景、あるいは「わけありの人がさすらい、定着する」場所というのが私の、いや、おそらく多くの「内地人」のイメージではないでしょうか。

函館を出発した私は大沼、洞爺湖、襟裳岬、十勝平野、釧路湿原、根室、知床、サロマ湖、オホーツク海沿岸を通過してゴール地点の宗谷岬まで、約二週間ペダルを踏み続けました。この過程で昭和後半にブラウン管やスクリーン、スピーカーなどから流れる「北海道」を堪能しつつも、はたしてこれが全てか、と自問するようになりました。昭和後期の「北海道物」の多くが「内地人の作った北海道」であり、「道産子の北海道」とはずれがあるはずです。そもそも道民の三分の一がこれらの北海道物にあまり出てこない二百万都市の札幌に集まり、その他の百万人が旭川、函館、小樽、釧路などの都市に居住しているのが実情です。札幌市民の日常生活は、他の百万都市と寒さを除いて表面上大きな変わりがないため、自然がクローズアップされるのかもしれませんが。

ところで1日中自転車で長距離走り続けるというのは、想像以上に暇なものです。頭の中は食べるもの、休む場所、泊まる場所、天気の変化など以外にはほとんどなく、時に子供のころのくだらない思い出などが自然に出てくるぐらいです。しかしせっかく北海道の大地を走るといふ、サイクリストとしての光栄に浴しながら、これではもったいないと思い、ペダルを踏みしめながらも私はなんとかしてこの「ステレオタイプ」な北海道観を打破しようとしていました。来る日も来る日もこの「ペダルを踏む若き哲学者」は北海道について考え、美しい風景だけでなく、休憩場所として選んだ町や村の資料館などで私以上に暇そうな学芸員をつかまえては北海道について色々話を聞きました。また、たまたま同じ宿などで知り合った内地からのバイク旅行者たちも話し合いました。おかげで、北海道の北海道たるゆえんが私なりにまとまってきました。

アイヌ文化と近代日本文明

北海道に到着するまでの一カ月あまり、九州と本州を縦断してから北海道に着いたため、自然環境以外に内地と違う北海道文化は何かということに目がいきます。結論としては先住民としてのアイヌの歴史文化と圧倒的多数の開拓者が持ち込んだ近代日本文明が決して溶けあったりせず別個に存在していることです。

例えば江戸時代の日本にあった餡子を明治時代にやってきたパンに入れてアンパンをつくったような現象はアイヌと近代日本との間ではほとんどなく、言い換えればアイヌ文化に近代日本文明を接ぎ木するのではなく、アイヌ文化を無視して近代日本文明を植え付けるという感じなのです。

たとえば、原野や湿原が広がる勇払や釧路、山々の神秘的な姿をカルデラ湖の湖面にたたえる大沼や洞爺湖、オ

ホーツク沿岸の灰色の海などでは、自然の神々とアイヌがこの大地の主人公だったころの様子を見てとれます。一方まるでアメリカの農場のように牛馬が牧場で草をはむ十勝平野や根釧台地、または中心の大通りをもとに碁盤の目状に整然と形成された町の数々を見るにつけ、この「北海道的」な風景は本来の姿を近代文明によって潰したうえに造られたということがいやでも分かります。富良野や美瑛のラベンダー畑や花畑なども複雑な思いで見ざるを得ません。



↑ポロトコタン（アイヌ民族博物館/白老町）

そのような近代日本の「爪痕」に抵抗するかのように、各地にアイヌ関連の資料館が建っています。白老のアイヌコタンや、平取のアイヌ民族資料館、静内のシャクシャイン記念像、札幌でのアイヌフェスティバルなどがあると、かなり遠回りしても見に行ったものですが、見てまわるにつれ、ここが近代日本初の「内国植民地」であることを再認識せざるをえません。この北海道を統治する北海道庁の、中心に丸いドームをのせた左右対称の洋館の姿は後の朝鮮総督府に似ていますし、アイヌに日本名をつけ、文明の名のもと日本式教育を施し、同時に固有の民族文化を否定したのも、日本が台湾や朝鮮で行ったことの基礎となったことは言うまでもありません。

さらに残念なのは、山の神、水の神などを怒らせないように生きるという日本古来の古神道的フィーリングは、アイヌの自然観と相通ずるものがあるにもかかわらず、開拓団が土地の神や山河の神に断りをしてから入植したという話も聞きません。そして札幌の北海道神宮をはじめとする各地の神社では、大国主命や少彦名といった日本建国の神々か、伊能忠敬や間宮林蔵といった開拓の先駆者を祀るにもかかわらず、アイヌの神々を祀る神社などは出てこなかったことです。

これらのことをまとめると以下の二点のことに気づきます。①日本政府にとって北海道の近代史とはこの北の大地とその先住民を日本化、近代化する歴史だったこと。②北海道の日本化・近代化とは、開拓する際に役立つものをえりすぐって移植することを指し、自然の神々を恐れ敬うといった古神道的感情や、アイヌの人権を守るといった民主的な思想など、日本文化や近代文明の根本はほぼ無視されたこと。

北海道を走りまわりながら感じた、内地と異なる精神風土、特に近代日本的なものとアイヌ的なものがしっくりつながっていないという感覚は、正にこれら二つのことに起因するのです。そして当時の私には日本的・近代的なものはアイヌ的なものと対立的なように感じられました。

2010年9月に18年ぶりに北海道の道東を観光バスに乗って訪れました。私も二十歳のころとは見方が変わったのか、近代化された表面の下に、たくましく生きのこる先住民の文化があちこちで垣間見られました。特にリゾートホテルの裏山や土産物屋の駐車場など、いたるところにフキが生えていました。フキはアイヌ伝説の小人、コロポックルのすみかと言われていました。その生命力に、1世紀半におよぶ日本化・近代化にも負けないしぶとさ、たくましさを感じました。

変わったのは私の見方だけではありません。この18年間にはアイヌとして初の国会議員、萱野茂氏がアイヌ語で参議院において演説し、アイヌ文化の復権をめざす「アイヌ新法」を制定したのです。アイヌを取り巻く社会も変わってきたのです。そして2012年には日本初の少数民族政党「アイヌ民族党」の結成に至りました。

ますます面白くなりつつある北海道。中華圏や韓国でも、北海道旅行はいわゆる「日本観光」とは別枠となっています。この内地とは異なる北海道の魅力を伝えられる通訳案内士が育つことを願ってやみません。